

来年1月に行われる今年度の介護福祉士国家試験。合格を目指す坂根・ジェセット・サンチェスさん(45)が、応募に必要な書類を一枚ずつ大事そうにそろえていく。不備がないことを確認



介護施設で非常勤職員として働く坂根さん(左)。「この仕事が本当に好き。頑張って社員になりたい」(目黒区で)

日本でも長く働きたい」と介護福祉士を目指すようになった。しかし、介護人材の質の向上などを目的に今年度から、受験資格として従来の3年以上の実務経験に加え、最大450時間



NPOなどが開く日本語教室で勉強する女性たち。教室内には難しい言葉が飛び交う



日本語教室でスタッフから指導を受ける秋元・ジェマ・ファブレスさん(手前)。今年度の受験で6回目の挑戦になる(墨田区で)

しい時に意欲を保てるのかという懸念もある。そんな彼女らを地域で育てようと、社会福祉法人やNPO、大学などが連携し、毎週金曜日に墨田区内で日本語教室を開いている。現在通うのが約30人。その多くが、坂根さんのように長年日本に滞在している外国人女性だ。合格への道は険しいが、「介護の仕事はとても楽しい。育ててくれた日本で資格をとって恩返しをしたい」と皆前向きだ。人手不足が続く、人材確保に頭を悩ませる介護現場。厳しい状況でも前向きに意欲を持ち続ける彼女たちの成功を願わずにはいられなくなった。

(写真と文 片岡航希)

日本に恩返し

介護を仕事に

「ぜひかまかりますように」。受験に必要な書類がそろい、応募前日に折りをささげる坂根・ジェセット・サンチェスさん(墨田区で)



介護施設のイベントでダンスを披露するボランティア団体のメンバー。介護福祉士を目指すフィリピン人らが、地域に馴染みをしようと今春に結成した(墨田区で)